

# 通信教育におけるレポート添削の評価アンケート

田畑 忍・魚崎 祐子・松山 巖  
Email: tabata@edu.tamagawa.ac.jp

玉川大学 通信教育部 教育学部教育学科

◎Key Words 通信教育, レポート添削, 評価アンケート

## 1. はじめに

授業改善などを目的とし、学生による授業評価アンケートが多く大学の大学で実施されている。しかし、学期末に実施する授業評価アンケートでは、学生の回答意欲や回答の質が低いのではないかと指摘もあり<sup>(1)</sup>、授業評価アンケートの形骸化が指摘されている。

通信教育における指導には、スクーリングと呼ばれる集中講義での指導とレポート添削による指導がある。本学では、夏期に実施しているスクーリング時に通学課程と同様の授業評価アンケートを実施している。しかしながら、もうひとつの指導形態であるレポート添削指導ではこれまで、評価アンケートを実施してこなかった。

## 2. レポート添削指導

### 2.1 レポート添削指導の概要

レポートの提出と科目試験の合格によって単位取得を目指す場合、学生は各科目で配布されるテキストを読み、補助教材として配布されるレポート課題集に従ってレポートを作成する。レポート課題集には、科目ごとに、添削指導を行う担当教員が示した「レポート課題」のほか、「学習上の留意点」や「評価の基準」などが細かく示されている。学生は、1単位につき2000～2400文字のレポートを提出する。レポートを作成する際、もしもテキストの内容やレポート課題集での指示などで疑問点が出てきた場合、学生は担当教員に郵送で質問することもできるが、この制度の利用者数は非常に少ない。

教員がレポートを添削指導するため、学生が提出するレポートはA4の右1/3程度が空欄となっている。教員はこの部分を利用し、例えば、「テキストを参考に、この部分の説明をもう少し詳しく記述してください」「なぜこのように言えるのか根拠を示してください」などのコメントを赤字で記入する。再提出を指示された学生は、これらのコメントを参考にしてレポートを修正・改善する。指導すべき点が多い時は、2度、3度に分けてコメントすることもある。この場合、1度目に指摘された点をきちんと学生が修正・改善しても、指導（再提出）が繰り返されることとなる。なお、本学におけるレポート添削の評価はA, B, C, Dの4段階で、Dが再提出である。

### 2.2 レポート添削指導における課題

先に述べたように、学生は理解が不十分な箇所の質

間をすることができるが、質問をしてくる学生は非常に少ない。この理由として、郵送による質問という形式であるため、レスポンスが遅いことが挙げられる。また、レポート添削指導時の課題として、教員のコメントが意図しない受け止められ方をされたり、再提出が繰り返されることにより学生からの不満が出たりすることもある。教員は、レポートのやり取りを授業であると考えて指導している。したがって、例えば私が担当しているある科目のレポート添削では、1回目の提出で合格する学生は2割程度である。しかし、先に述べたような指導を繰り返す事により内容の濃い、完成度の高いレポートとなる。しかしながら、学生にしてみれば「再提出＝不合格」のようなイメージがあるようで、それが学生のモチベーションに影響を与える可能性もある。また、繰り返しコメントしても修正・改善がなされない時もあり、教員の意図が学生に十分伝わっていないこともレポート添削の課題のひとつである。

## 3. 本研究の目的

本研究では、通信教育におけるレポート添削の評価アンケートを実施するためのアンケート項目、実施方法などを検討することを目的とする。レポート添削の評価アンケートを実施する理由は、「教員の意図が学生に伝わっているのかを把握すること」と「学生のレポート添削のニーズを把握すること」であり、レポート添削の質を高めることが最終的な目的である。レポート添削の評価アンケートを実施することにより、教員は自身のレポート添削での課題を把握することができるようになる。これにより、レポート添削という授業における指導を改善するためのヒントを得ることができる。

## 4. レポート添削の評価アンケート

以下では、検討するレポート添削の評価アンケートについて、質問項目と実施方法にわけて説明する。

### 4.1 質問項目

2014年3月から具体的な検討に入り、修正・改善を繰り返して作成したものが表1に示したものである。例えば、「コメント・アドバイス」という表現については、当初、「指摘」としていた。しかし、レポートでの指導ではピンポイントに指摘するのではなく、どのように修正すべきかを示唆するのではないかと意見があり、それらを含める意味で「コメント・アドバイ

表1 作成した質問項目

レポート添削に関する調査を実施する目的は、教員のコメントが学生のみなさんにきちんと伝わっているのかを調査すること、また、みなさんがどのような添削指導を求めているのかというニーズを把握することです。

【I. あなた自身についての質問】

質問1：入学年度を教えてください

2009年以前 2010年 2011年 2012年  
2013年 2014年

【II. レポート添削の履歴についての質問】

質問1：何回で合格しましたか？

1回 2回 3回 4回 5回 6回以上

【III. レポート作成にあたっての質問】

質問1：『通信授業シラバス』で、科目の概要や主な到達目標等を確認しましたか？

確認した 確認していない

質問2：『レポート課題集』掲載の「レポートの書き方とQ&A」を読みましたか？

読んだ 読んでいない

質問3：『レポート課題集』（学習指導書がある場合はそれも含む）掲載の当該科目の課題・レポート作成にあたっての留意事項・評価の観点などを読み、どのような内容がレポートとして求められているかを理解できましたか？

よく理解できた 少し理解できた どちらでもない あまり理解できなかった まったく理解できなかった

【IV. レポート添削についての質問】

質問1：添削担当者からのコメント・アドバイスはなされていきましたか？

しっかりなされていた 少しなされていた どちらでもない あまりなされていない まったくなされていない

質問2：添削担当者からのコメント・アドバイスはわかりやすかったですか？

とてもわかりやすかった 少しわかりやすかった どちらでもない 少しわかりにくかった とてもわかりにくかった

質問3：添削担当者からのコメント・アドバイスを受けて、どこをどのように直せばよいのか理解できましたか？

よく理解できた 少し理解できた どちらでもない あまり理解できなかった まったく理解できなかった

※3回以上の提出を求められた方のみ、以下の質問にも回答してください。

質問4：再提出が繰り返された際、各回の指導内容につながりがありましたか？

とてもつながりがあった 少しつながりがあった どちらでもない 少しつながりななかった まったくつながりななかった

【V. その他、何かありましたら自由にご記入ください。】

(例) 提出票の批評と本文中のコメントが一致していなかった。

(例) 課題で求められている内容が、添削を受けたことによって理解できた。

ス」とした。

I, IIIでは主に学習者自身のことを聞き、II, IVではレポート添削のことについて聞いている。なお、「通信授業シラバス」とは、テキストを読み進めるにあたり、通学課程の授業と同様にテキストの内容を15回にわたってその要点を示したものである。そこには、通学課程のシラバスと同様に科目の概要や到達目標、科目試験への準備などが書かれている。また、「提出票」とは、学生が提出するレポートに貼り付けてくるもので、氏名と学籍番号、科目名と科目コードなどが記入されている。そこにはレポート全体のコメントなどを書く批評欄があり、A～Dの評価についても提出票に記入する。

## 4.2 実施方法

本アンケートについては、2014年8月からの試用実施を考えている。本学の通信教育部には、学生のみログインできるサイトがある。そこでは、科目試験やスクーリングの申込が可能であったり、事務からの情報を確認したりすることができる。本アンケートについては、そこで詳しく目的などを説明した上で実施する予定である。学生は、サイト上で科目と担当教員が載った一覧表の中から、レポート添削の評価アンケートに回答しようと思う科目と担当教員を選択する。

なお、レポート添削の評価アンケートについては、試用実施の結果を踏まえて、2015年4月以降に本格実施を予定している。この時は、すでに導入することが決まっているLMS上での運用を考えている。試用実施の期間中、学生は、レポートは従来通り郵送で提出し、評価アンケートに回答するためにサイトにログインすることとなり、作業的にとても面倒である。しかし、本格実施後はレポート提出についてもLMS上で行うことにしているため、学生の評価アンケートに回答する際の負担は減ると考えている。

## 5. おわりに

通信教育においては、レポートのやり取りが授業のひとつのスタイルである。そこで、レポート添削の質を高めることを目的とし、通学課程の授業でも多くの大学で実施されている授業評価アンケートをレポート添削で実施しようと考え、レポート添削における評価アンケートの質問項目と実施方法について検討した。今後は8月から実施する試用期間の結果を踏まえ、LMS上での実施方法などの検討も行いたいと考えている。

## 参考文献

- (1) 東北大学高等教育開発推進センター：“学生による授業評価の現在” 東北大学出版会 (2010)